

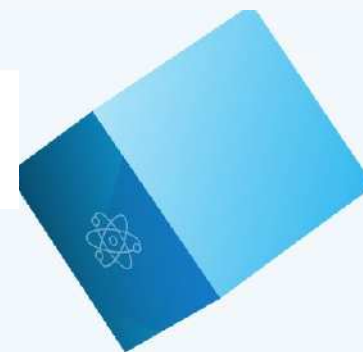


あいちデジタルアイランドプロジェクト

TECH MEETS



eiicon



TECH MEETS



MODERATOR

eiicon

東海支社

Account Executive / Consultant

上原 和也





あいちデジタルアイランドプロジェクトの概要



TECH MEETS



産業振興課 次世代産業室
デジタル戦略調整グループ
松岡 徹



あいちデジタルアイランドプロジェクトとは

中部国際空港島及び周辺エリアを
オープンイノベーションフィールド^{に位置付け、}
2030年に普及が見込まれる
近未来の事業やサービスを先行的に実用化
することを目指す。

県内各地へイノベーションの果実を波及

今年度の取組

TECH MEETS

シーズのトライアルからニーズ×シーズのマッチングまで各ステージに応じた実証支援

01

先端デジタル技術を用いた
実証実験

生体認証システムの導入に向けた
実証実験



データを活用した行動変容
実証実験



02

先端デジタルサービス実装パイロット事業
「TECH MEETS」

当エリアの企業・施設等ニーズ
×
テック企業・スタートアップ
マッチング
▶ 先端デジタル技術の実証実験

「AIアバターを活用した観光案内」



03

実証フィールド活用

テック企業・スタートアップの
実証フィールド確保支援

04

ワンストップ窓口

実証アイデアの具体化に伴走
情報提供等の各種支援

今後の展開

2022年
あいちデジタルアイランドプロジェクト始動
先端デジタル技術を用いた実証実験

2024年～
シーズのトライアルからニーズ×シーズマッチングの共創による実証実験まで
各ステージに応じた支援

2025年～
**企業共創による実証実験・
フィールド活用の拡大を重点化**

- 01** 共創企業数の拡大・新たな切口（大規模イベント・インバウンド等）へアプローチ
- 02** 実証フィールドの拡大・課題の見える化
- 03** 実証成果の発信・PRイベントの拡充



TECH MEETSの概要



TECH MEETS

本事業は、中部国際空港島及び周辺地域に立地する企業・施設等（ニーズ企業）と先進的なデジタル技術を持つテック企業やスタートアップ等（シーズ企業）が手を携え、近未来の事業やサービスの早期実現を目指し開発・実証実験を行います。

ニーズ企業

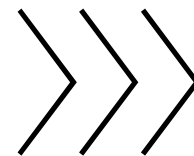
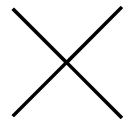


中部国際空港等及び近隣エリア
の企業やフィールド

シーズ企業



先端デジタルサービスや
プロダクトをもつ企業



ニーズ企業の課題を
解決するプロダクトや
サービスの開発・実証

ニーズ企業

TECH MEETS

中部国際空港島エリアに立地する **9** 社が参画！



ANA中部空港株式会社



中部国際空港 セントレアホテル



プログラムステップ

2つのステップを経て、各種サービスやソリューションの
早期社会実装を目指します。



共創チーム

TECH MEETS

AEON MALL
イオンモール常滑



DXYZ

AICHI
SKY EXPO



SENSORS & WORKS

常滑市
Tokoname City



FIRST LAUNCH

中部国際空港 セントレアホテル



iPresence
Teleportation as a Service

常滑市民病院
Tokoname Municipal Hospital



ETES.JAPAN

MEITETSU
Creative Life
Institute



koeerü

名古屋名物
みそかつ
矢場人



地元カンパニー
JIMOTO COMPANY inc.

名古屋名物
みそかつ
矢場人



FIRST LAUNCH

centrail



FUJITSU

ANA中部空港株式会社



AltoAir



各プロジェクト概要



Aichi Sky Expo × 株式会社センサズ・アンド・ワークス

テーマ名	人流デジタル化によって「3方よし」を実現するDXソリューション
取組概要	Aichi Sky Expoにおける人流の現状把握と対策案の抽出のため、人流／周遊データの取得・分析をすることによって、催事の誘致や安全対策、渋滞対策といったイベント運営の質の向上、高効率化につなげる。
目的・課題	・名古屋から30分の立地（初開催の場合、集客に不安がある） ・前面道路渋滞などの問題（中部国際空港の旅客への影響） ・セキュリティの問題
実証内容	下記イベントにおける人流センサー・WiFiプローブを活用した人流データの取得を実施。 【イベント詳細】 ・開催日時：2025年2月22日～23日 10時～17時 ・対象イベント：わんにゃんドーム2025 in Aichi Sky Expo／名古屋キャンピングカーフェア2025 SPRING ・催事会場：ホールD・・・わんにゃんドーム ホールE・・・共通フードコート ホールE・F・・・キャンピングカーフェア
結果	大規模展示場での人流計測として技術的な有用性を確認。 ・精度：98%以上の捕捉率 ・安定した無線：99%以上の受信率 ・コストパフォーマンス:約30%他社比較
今後の展望	・Aichi Sky Expoにおける実装に向け、社内決済の可能性を検討。 ①ホール内の人数把握の結果（制度98%） ②蓄積されたデータ（ビックデータ）を利用し、イベント運用および効率的な運営計画（誘導員や警備員の省人化） ③来館人数等の把握できたデータを営業活動に利用する（主催者様・出展者様） ④当館大型催事開催時の渋滞対策（りんくうエリアよりのパーク＆ライド等）

イオンモール常滑・株式会社イオン銀行×DXYZ株式会社

テーマ名	「顔だけで、世界がつながる。」顔認証IDプラットフォームFreeiD
取組概要	デジタルサービスをスムーズに活用できないお客様の課題解決を目的に、生体認証を活用し、顔認証決済サービス「FreeiD Pay」、紙やアプリの会員証やクーポン券の提示が不要になる「FreeiD Point」、「FreeiD Coupon」を提供し、誰もが自由に過ごせる買い物体験のアップデートに取り組む。
目的・課題	老若男女さまざまな方が訪れるイオンモールでは、スマートフォンアプリなどを活用した決済やポイントのデジタルサービスを使いこなせない、うまく使えない方がいることに課題を感じている。
実証内容	イオンモール常滑内において、顔認証決済サービス「FreeiD Pay」、紙やアプリの会員証やクーポン券の提示が不要になる「FreeiD Point」、「FreeiD Coupon」を提供。 「FreeiD Pay」：第1回 1月24日(金)~26日(日)／第2回 2月22日(土)~24日(月) 「FreeiD Point」：1月24日(金)~2月24日(月) 「FreeiD Coupon」：1月24日(金)~2月24日(月)
結果	「FreeiD Pay」： 利用者数：346回／決済回数：1,173回／決済金額（税込）：348回 →FreeiD Payについて決済金額200万円のKPIに対して348万円と174%の達成率を記録。 FreeiD Pay、FreeiD Point、FreeiD Couponのいずれも通常業務システムと分断した実証用サービスではあるが、サービスとしての有用性はアンケート結果などから検証できた。
今後の展望	事業化に向けて、通常業務システムとも連携しシームレスに利用可能なサービスの開発、実案件でのサービスインを検討する。

ANA中部空港株式会社 × AltoAir株式会社

テーマ名	AIカメラによる手荷物管理業務の効率化
取組概要	手荷物管理にAIカメラを活用することで、省力・省人化の実現を目指す。 ①手荷物タグの自動読み取り・受付手荷物の位置管理・回収作業の効率化。 ②手荷物の3Dデータ取得による手荷物容積の推定、積載量の把握・創作時間の短縮化。
目的・課題	日本政府が掲げる2030年訪日旅客目標数6,000万人に対し、航空機業界は生産性向上と人材確保が急務。 一方で、手荷物管理業務は長年変わらない非効率なアナログ作業が横行。
実証内容	①AI手荷物タグの読み取り ②AI手荷物容積の推定
結果	①AI手荷物タグの読み取り：行き先・便名・日付はスマートフォンで認識できることを確認。 ②AI手荷物容積の推定：Depthカメラで容積と外観情報の取得を確認。
今後の展望	・2025年上期 ・デバイスの決定 ※ソーティングエリアへ移動前の荷物についての容積情報、外観情報、タグ情報のすべてを同じタイミングで取得するためのハードウェア機材選定。 ・データ活用方法検討 ※預け荷物に関する外観、タグ情、容積すべての情報をデータベース化し、グラウンド勤務のすべてのスタッフがタブレットを通じ、荷物に関する情報のインプット、アウトプットできるシステムを構築。 ・2025年下期 ・トライアル＆導入へ。

中部国際空港株式会社 × 富士通Japan株式会社

テーマ名	既存カメラ映像を活用した不審行動検知AIの実現可能性検証
取組概要	AIで映像解析を行い不審行動を検知するサービス「Video Behaviour Analytics」を活用し、不審行動の早期検知や追跡支援による監視負荷軽減を目指す。
目的・課題	中部国際空港は2030年度旅客数2,000万人を目指している中、働き手の確保は、今後ますます困難となっていく。 現状、“人が”実施している、空港内で発生するインシデントや、迷子・放置物件、警備員や案内スタッフによる巡回やカメラ検索は、安全安心な空港の維持のため、人手に頼らない業務のあり方に転換していくことが重要な課題となる。
実証内容	空港施設内の防犯カメラ映像をAIでリアルタイムに解析を行い、事象の自動的検出。 【実証実験で検知対象となる行動の一例】 ・ 不審物の置き去り ・ 転倒 / 暴力行為・危険行為 ・ 対象者のトラッキング / 特定エリアの侵入
結果	・ 行動検知：検知率41.7% ・ 検知後の人物追跡：検知率72.8% ・ 画像による人物検索：検知率89.2%
今後の展望	空港の安心安全をつくる、人手に頼らない警備システムの実現に向けて、今後以下の取組を想定。 ・ 精度向上の検討・実証 各ユースケースに合わせたAIモデルの再定義、パラメータ調整やAIモデルの精度が不安定なカメラ映像内の検出範囲の調整、カメラの台数増や画角調整など、中部国際空港株式会社として出来る事柄の検討を実施。 ・ 実装に向けたシステム環境整備、運用方法の検討 空港全体ではなく旅客の多いエリアなどの一部のエリアからの導入を想定。 →対象エリアの選定、必要なシステムや費用の算出。 システム導入時の警備業務や空港運用業務のあり方の議論、調整。 ・ 実装 部分導入→効果を確認し空港全体への導入の想定。

常滑市観光戦略課 × 株式会社ファーストローンチ

テーマ名	『AIトコタン』で、世界とつながり、愛される常滑に！
取組概要	常滑駅での無人観光案内にむけて、「AIトコタン」による観光案内を実施。 来訪者それぞれのニーズに合わせた観光情報の提供を提供し、観光案内スタッフの負担軽減・人手不足解消を図る。
目的・課題	国内外から多くの観光客が訪れる常滑市において、駅前の観光案内所の移転に伴い、多様なニーズへの対応・増加する外国人観光客への多言語対応、観光案内スタッフの負担軽減に取り組む必要がある。
実証内容	Aiトコタンで観光案内スタッフの代替ができるかを検証。 ・ KPI①：技術面・・・AIによる観光案内が実用に足るか。 ・ KPI②：運用面・・・観光協会スタッフの負担具合。 ・ KPI③：受容面・・・観光客に受け入れられるか。
結果	・ KPI①：技術面・・・AIによる観光案内が実用に足るか。 →システム上は、有効回答の80%で適切な回答ができていたという認識。 人間が使用したときの感覚としては、まだまだ聞いたことに対して欲しい情報を回答できていないという認識。 ・ KPI②：運用面・・・観光協会スタッフの負担具合。 →クレーム件数：0件／人間スタッフの呼び出し件数：4件／ 故障・不具合などへの現場対応件数：3件／その他現場対応事例：3件 観光協会のスタッフとしては、苦情もなく呼び出しの件数が少ないことから、ある程度観光客の「初期対応」ができているという実感 ・ KPI③：受容面・・・観光客に受け入れられるか。 →クレームなどはなかったため、問題なく受け入れられているという認識。 一方で、以下の可能性もあることに留意が必要 ・ そもそもの利用者数が少ない ・ 観光案内目的で話かけている人が少ない
今後の展望	(1)5月GW明けまでを目安に実証実験を延長して実施。有用かどうかの判断を行う。 【検証内容】 ・ 会話の精度向上の実施（AIのブラッシュアップ） ・ ハードウェア・ネットワーク環境の現状評価と改善 ・ AIトコタンのプロモーションの再実施 (2)その後、駅や他の箇所（スマートフォン版など含む）での追加設置実証 および本格導入を検討する。

常滑市民病院 × 株式会社Eyes, JAPAN

テーマ名	AI を活用した診療記録自動作成システム
取組概要	医療文書作成の課題に対し、AI問診記録システムを活用し、書き起こしや既存の病院システムとの統合性を検証し、医師の業務負担軽減を目指す。
目的・課題	医療文書作成には、情報の断片化、非効率な引継ぎ、情報更新の遅れや一貫性のない記録の質など課題がある。
実証内容	AI問診記録システムを活用し、下記の内容を検証。 ・書き起こし能力の検証：システムの正確な記録と要約のテスト ・使いやすさの実証：医療スタッフの時間節約の実証 ・インフラ統合の紹介：既存の病院システムとの統合の実証 ・ユーザーフィードバックの収集：システム改善のための貴重な洞察の収集
結果	01)音声からテキストへの自動記録、話者分離。 02)SOAP形式に要約 03)院内システム向け転記QRコードの発行 【利用者の声】 要約内容は活用できる内容だった。 ただ取込み方法がもう少し簡略化できると良かった。
今後の展望	【株式会社Eyes, JAPAN】 ・2025年：実用化フェーズ →2024年の常滑市民病院とのPoCで問診記録自動化AIの基礎機能の検証や医療スタッフからのフィードバックを元に、中小規模病院・クリニックでの試験導入を目指す。

中部国際空港セントレアホテル×iPresence株式会社

テーマ名	AI会話可能なホテルフロントロボットの利活用
取組概要	iPresence社が提供するAI会話可能な自律移動ロボット「temi（テミ）」を導入し、フロント業務の効率化と宿泊者体験の向上を目指す。
目的・課題	宿泊業界では人手不足が深刻化しており、特に空港周辺のホテルでは、急増する宿泊客の対応が大きな課題となっている。また、単に業務効率を上げるだけでなく、宿泊客にとっての快適な宿泊体験を提供し、ホテルスタッフの負担を軽減することを目的とする。
実証内容	ホテルフロント業務における、行列整理・フロア案内・チェックアウト案内を検証。 【実証スケジュール】 2024年1月上旬: temiおよびタブレット導入、初期設定、スタッフ向けトレーニング 2024年1月中旬～2月末: 実運用を開始し、継続的な改善とデータ収集を実施 2024年3月: 成果報告書の作成と今後の展開方針の検討
結果	スタッフからの声として、下記の意見が寄せられた。 - AIロボットによる案内のしやすさ →temiが宿泊客に対して適切なタイミングで声をかけることで、スタッフの負担が軽減され、案内業務がスムーズになった。 - 業務負担の軽減と心理的余裕 →temiが整理役として機能することで、行列整理のためにスタッフが前に出る手間が省けた。 - 行列整理とスタッフの負担軽減 →チェックインピーク時における行列管理がスムーズになり、宿泊客の待機時間に対するストレスが軽減された。 - AIロボットの役割と今後の期待 →temiが「1人のスタッフのように」働くことで、人員配置の効率化が可能になった。
今後の展望	【中部国際空港セントレアホテル】 本実証を通じて、ホテル運営におけるロボット活用の具体的な可能性が見えた。特に、「ロボットでもできることがある」という認識が広がり、単なる自動化ではなく、スタッフの業務を補完する役割として活用できることが実証され、自動チェックイン機の導入が進んだ場合も、その運用をサポートする役割としてロボットを活用する未来像も見えた。 【iPresence株式会社】 iPresence-Agentの命名と本格販売決定 今回の実証を経て、新たなAIロボットソリューションとして「iPresence-Agent」と命名し、本格販売を決定。 今後の展望として下記を想定。 2024年度 プロトタイプ版／PoC実施（今回の実証実験） 2025年度 ベータ版提供開始（年間10～20件の導入を予定） 2026年度 アルファ版提供開始（年間50～100件の導入を目指す）

株式会社名鉄生活創研 × 株式会社Koeeru

テーマ名	空港コンビニをタッチポイントとした訪日外国人のVOC分析とグローバルVOCプラットフォーム技術を活用したトレンド予測
取組概要	Koeeruが開発する顧客の声（VOC）を起点とするカスタマーデータプラットフォーム「Koeeru CDP」を活用し、訪日外国人の声（VOC）を収集・分析することで訪日観光客のニーズの見える化を目指す。
目的・課題	多様化する購買行動への適応が必須となっている中で、中部エリアNo.1、全国有数の売上規模を誇るファミリーマートエスタシオ セントレアホテルプラザ店においては、訪日外国人の顧客も増え、訪日外国人の困りごとや、なぜその商品を買ったのか、が分からない。
実証内容	・ VOC収集 ①空港のコンビニを活用した旅ナカの声を集める。 期間：2/3～2/28 対象者：ファミリーマートエスタシオ セントレアホテルプラザ店の訪問外国人 ②グローバルリサーチを活用し、旅マエ・旅アトの声を集める。 期間：2/20～2/26 対象者：直近（1年以内）訪日経験者、訪日旅行予約者（1年以内） ・ VOCDP構築：VOC（テキスト、定量、画像）を分析 ・ 訪日観光客ニーズ・プロダクトトレンド・顧客体験（CX）の見える化
結果	・ 旅ナカリサーチ：目標KPIに対し、取得サンプル数 27.6%（138/500件） ・ グローバルリサーチ： 目標KPIに対し 取得サンプル数 100%（1,800/1,800件） ・ VOCの反映 ・ ほしいものがどこにあるか分かりにくいという声→ピクトグラムを用い、多言語対応した案内を設置。 ・ 要望の多いアイテムの発注数の増加、陳列の拡大やお客様の声を取り入れたPOPの設置。 →上記対応後のNPSが上昇。定量的に顧客満足につながったと考えられる。 ・ 顧客ニーズの見える化：名鉄生活創研だけではなく、名鉄グループ全体に共有する仕組みを構築。
今後の展望	中部エリアの自治体や事業会社と共創することで、タッチポイントを増やし、愛知県独自の訪日観光客プラットフォームの構築を目指す。 【2025年】 ・ タッチポイントの拡大 ・ CRFM構築 ・ マネタイズモデルの構築



TECH MEETS

株式会社矢場とん × 株式会社ファーストローンチ

テーマ名	『AIぶーちゃん』で地元・世界に愛される新しい矢場とんへ
取組概要	待ち時間に会話ができるAIアバター「AIぶーちゃん」を開発することで、順番待ち時間を「エンターテインメント」に変える。スタッフが行っていた順番待ち対応業務をお客様が「セルフ」でできる「待ち伝オンライン」の開発により、順番待ちの受付・注文の自動化・従業員の負担軽減を目指す。
目的・課題	名古屋名物 みそかつ 矢場とん 中部国際空港店は、順番待ちのお客様が長時間並ぶ店舗となっており、順番待ちのお客様を満足させる・従業員の負担を軽減させる施策が必要。
実証内容	KPI①：「AIぶーちゃん」が多くのお客様に認知され、利用されること。 KPI②：「待ち伝オンライン」が従業員の負荷軽減に繋がること。
結果	①AIぶーちゃん：合計675名のお客様が利用。 【課題】お客様のニーズに沿った対応ができているかの追加調査が必要。 ②スタッフの負担軽減につながったものの、実際の利用率が低く、評価が限定的。 【課題】待ち伝オンラインの利用率が芳しくなく、店舗のオペレーションとしての認知拡大が必要。
今後の展望	2025年： 多店舗へ導入拡大に向けて、得られたデータをもとに、既存システムとの連携開発などの機能拡充を実施。 2026年： 矢場とんの枠にとどまらず、飲食業界全体の課題解決に向けた社会実装を進める。



TECH MEETS

株式会社矢場とん × 株式会社地元カンパニー

テーマ名	『あと配土産（あとはいみやげ）』でもっと楽しく！もっと便利に！
取組概要	地元カンパニーの「あと配土産」サービスを活用することで、観光客の帰路の荷物負担を軽減しながら、名古屋土産を購入する新たな選択肢を提供し、店舗での販売機会・土産品の売上向上を目指す。
目的・課題	看板商品みそかつは、持ち帰りやギフトの要望があるが、冷凍保存が必要であり、現状は「保冷バッグ手提げ袋」または「通販サイトでの購入」へ誘導している。また、旅行最中の来店客については、冷凍商品の現物を持ち帰ることが難しく、荷物の増加や保冷時間の制約等により、売り逃しが発生している可能性がある。通販サイト経由の購入は、会員登録や申込の手間がハードルとなり、離脱している可能性がある。店舗スタッフのリソースは接客で手一杯であり、それらに依存しない解決策が求められている。
実証内容	・実施・検証・評価期間：2025年3月7日～3月14日 ・場所：矢場とん 中部国際空港店 【施策】 ・店頭での販促施策 「あと配土産」専用の販売スペースを設置 販促POPやチラシを設置・配布して来店客への露出を強化 ・オペレーションの最適化 注文から配送までのオペレーションのトレースして課題抽出 業務フローの最適化 ・購入データの収集・分析 購入曜日や客層ごとのデータを取得し傾向を分析、販促施策への反映
結果	・市場評価：複数価格帯の要望。パッケージについて、好評な声があった。 ・販売効果検証：「お土産」ではなく、「プレゼント」「ギフト」だと刺さる。 ・顧客データ収集分析：下記2パターンに収斂。 ①出張帰りのビジネスパーソンが家族向けに。 ②帰省前に親御さんや友人向けに。 ・オペレーション最適化： 「ギフトボックスを買ってプレゼントすると、贈った相手が選べて、自宅に届く」が、お客様に刺さる
今後の展望	・POPの改善を実施、今後も複数回の検証と改善を実施する。 ・スタッフによる端的かつ効果的な声掛けも検討して実施する。 ・これら地道な改善の積み重ねが、多店舗展開する矢場とんにおいては、総体で大きな成果に繋がると思料。 ・全店舗へ展開することで、多くのニーズと矢場とんの売上向上に貢献するとともに、今後は愛知県産品の流通拡大に向けて、本技術を活用を目指す。



あいちデジタルアイランドプロジェクト

TECH MEETS

